

競技内容

1977年にアメリカで始められたマイクロマウス競技は、「ワンチップで何ができるのか?」という、疑問の投げかけがきっかけだった。それを受けて、1980年からスタートした全日本マイクロマウス大会は、今大会で28回目を迎えた。

当初は課題すら達成するのが難しかったが、いつの間にかどのくらい速く達成できるのかが競われるほどとなった。

全日本マイクロマウス大会で実施される各競技では、そのすべてで完全な自律性がロボットに求められる。スタートしてから課題を達成するまで、人の手をまったく借りないのが原則である。

大会結果

ロボットレース競技 優勝



「Take-Three」
Roh Hyun-chul
(ZETIN.Univ.of Seoul.Korea)

マイクロマウス競技 優勝 エキスパートクラス



「HOPE Y8A」
JACKSON YOUN SHI KAT
(NANYANG POLYTECHNIC)

マイクロクリッパー競技 優勝



「Shinka」
大島 章
(筑波大学つくばろぼっとサークル)

ロボットレース競技

ロボットレース競技では、周回コースの走行タイムが競われる。コースのレイアウトは大会ごとに、そして予選と決勝で異なるものが使われるが、その全長は60m以下と定められている。コースの曲率が変化する地点では、ラインの左側にコーナーマーカーが描かれる。

ロボットは、このコースの情報を事前に得てはならない。ただし、3分間の持ち時間内に許される、3回までの走行中に、ロボット自身がコース情報を取得して分析することは許されている。そこから加速や減速のタイミングを計り、ロボットは徐々に走行タイムを縮めていくのである。

優勝した「Take-Three」は、バキュームでフィールドに吸着することにより、急な加減速を可能にしていた。



マイクロマウス競技

マイクロマウス競技は、手のひらサイズの小さなロボット

によるロボコンである。その小さなロボットが、256区画の正方形で構成される迷路の探索を行い、同時にスタートからゴールまでの到達タイムを競いあう。